

毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です

～子どもの読書活動を推進しましょう～



第70回学校読書調査報告

全国学校図書館協議会では、毎年6月に、子どもの読書の実態や読書環境について全国規模の調査を行っています。本年度も、全国の小・中・高等学校143校の児童生徒12,032人に実施されました。

11月に、その調査結果が公開されましたので紹介します。「本年度の5月の平均読書冊数」は、下の表となりました。

＜学校種別5月の平均読書冊数＞

	2022年	2023年	2024年	2025年
小学生	13.2冊	12.6冊	13.8冊	12.1冊
中学生	4.7冊	5.5冊	4.1冊	3.9冊
高校生	1.6冊	1.9冊	1.7冊	1.4冊

結果の分析によると、本年は、平均読書冊数は各校種において減少傾向だったそうです。調査開始以来、小学校と中学校では、その実施年によって若干の増減が見られるものの1995年の調査開始より子どもの平均読書冊数は年々増加してきています。小学生でいえば、1995年の平均読書冊数は5.4冊でしたが、本年は12.1冊となっています。これは、この30年間の家庭・地域、学校、図書館等の子どもの読書活動推進の取り組みの成果であると考えます。

しかしながら調査結果報告では、読書量は増えたものの

- ・小学校では、読書冊数は増えたが読書量の減少
(厚い本から薄い本へ、小さな文字から大きな文字へ、一つの話題が数ページ以内に収まる本へ)
- ・不読率の上昇 (学校や家庭で読書に充てる時間の減少)
- ・学校種や学年が進むほど、読書量が減少

などの課題も考察されています。

また同調査では「子どもを取り巻く大人が読書をしなくなり、本との出会いの感動や読書の喜びを伝える機会の減少」も読書離れの要因として考察されています。私たち大人の本への関わり方も再度、見直す必要があると思います。

読み聞かせの体験は読書が好きな子どもを育て、親や教師からの本の紹介は、新たな読書のきっかけとなります。子どもの豊かな心や思考力やコミュニケーション育成のために、今後も、それぞれの立場で「子どもの読書活動推進」に取り組みたいものです。

<各学年の「今の中年になってから読んだ本」で多かった本（上位2冊）>

学年	男子	女子
小4	科学漫画サバイバル* ほねほねザウルス*	科学漫画サバイバル* 学研まんがでよくわかるシリーズ*
小5	科学漫画サバイバル* ざんねんないきもの事典*	学研まんがでよくわかるシリーズ* ふしぎ駄菓子屋銭天堂*
小6	科学漫画サバイバル* 54字の物語*	5分後に意外な結末* ふしぎ駄菓子屋銭天堂*
中1	変な家* 名探偵コナン（小説版）*	変な家* あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら*
中2	変な家* 名探偵コナン（小説版）*	あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら* 変な家*
中3	変な家* 5分後に意外な結末*	あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら* 変な家*
高1	変な家* あと少し、もう少し	変な家* あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら*
高2	とわの庭 変な家*	あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら* とわの庭
高3	けものたちは故郷をめざす◆ 3分間サバイバル*	あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら* 人間失格

*は、シリーズや多巻ものをまとめて集計

◆は、1校のみだけで得票しているもの

「今の中年になってから読んだ本」の調査からも、多巻シリーズやサッと読める本（話題の展開の速さやどこから読んでもわかる等）、短時間で読める本に人気があると考察されています。時代の流れととらえるのではなく、子どもの健やかな成長のためにも、子ども達に、読み応えのある本への出会いの場を作ったり、本との出会いの場の工夫を行ったりしていきたいものです。

☆ 参考文献

学校図書館 2025.11 通巻第901号

特集 子どもの読書の現状（第70回学校読書調査報告）

読書でみんなの心に種をまこう（小日向）

読書もパフォーマンス重視なのか（武村）

☆ 参考資料

第70回学校読書調査報告

今年も残りわずか。来年は 十二支：7番目の午（うま）にあたります。馬は人の暮らしを支えてきたため、家族を守り、幸せを運ぶ縁起の良い動物とされています。また、力強く前進する力がみなぎり、新しい挑戦が成功しやすい年とも言われています。

どうぞ良い年をお迎えください。

＜須藤＞



1月のことと人

1月11日 鏡開き

お正月に神様（年神様）や仏様にお供えした鏡餅を下げる日とされています。神仏に感謝し、また無病息災などを祈って、汁粉や雑煮などで食べます。武士の家では鏡餅を刃物で切ることは切腹を連想させるため、手や木槌で割る風習がありました。また、「切る」「割る」という言葉は避けて「開く」という言葉が使われたそうです。

1月29日 昭和基地開設記念日

1957年のこの日、南極大陸に「昭和基地」が開設されました。地球科学者・永田武隊長の指揮する南極観測隊が東オングル島に上陸し、本格的な観測を始めました。現在は、世界の気象観測網の拠点にもなっており、約30名の隊員が1年間観測活動を行う日本の主要基地として、半世紀を超えて維持、管理、運用を続けています。

ジョン・ロナルド・ルーエル・トールキン
(1892.1.3~1973.9.2)

イギリス生まれ。文献学者、作家、詩人。『ホビットの冒険』や『指輪物語』の著者として有名です。『指輪物語』は、エルフや人間の架空の世界を舞台としたハイ・ファンタジー作品で『ホビットの冒険』の続編として始まります。1937年から1949年にかけて少しづつ書かれたが、執筆期間の大部分は第二次世界大戦中だったそうです。

ヒュー・ジョン・ロフティング
(1886.1.14~1947.9.26)

イギリス生まれ。20世紀前半にアメリカ合衆国で活動した児童文学及び絵本作家。少年時代から動物や昆虫が好きで、小動物を飼って「ミニ動物園」を作ったりしていたそうです。1916年、戦争で負傷した馬が治療も受けられず銃殺されたことに心を痛め、子供に宛てた手紙に自身が創作した動物の言葉が話せる医師、ジョン・ドリトル先生の物語を書き綴ったそうです。

アラン・アレクサンダー・ミルン
(1881.1.18~1992.5.27)

イギリス生まれ。児童文学作家、ファンタジー作家、推理作家、詩人、劇作家。日本では童話、童謡の作品が有名です。1926年に発表されたクマのぬいぐるみでハチミツ好きの「プー」と、森の仲間たちとの日常が10のエピソードによって描かれている『クマのプーさん』は有名です。多数の言語に翻訳されて、いまなお世界中で読み継がれています。

長谷川 町子
(1920.1.30~1992.5.27)

佐賀県生まれ。日本初の女性プロ漫画家。現在の佐賀県多久市で生まれ、父親の仕事の都合により、現在の中央区春吉に転居し、春吉尋常小学校に小学1年生から通いました。その後、東京に転居しますが、1944年に疎開のため現在の早良区百道に転居しました。百道海岸付近を妹と散歩をしているときに、海にちなんだ名前をつけて『サザエさん』の家族構成や名前を思いついたそうです。

図書館員のひみつの本棚 第236回

今月は、不思議な世界観が癖になりそうな絵本をご紹介します。

『スモンスモン』

ソーニヤ・ダノウスキ／文・絵、新本史斎／訳 岩波書店 2019年 1800円(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆★★ 小低学年★★★★ 小中学年★★★★ 小高学年★★★★ 中学生★☆☆
高校★☆☆ 一般★☆☆ (★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

ゴンゴン星に住んでいるスモンスモンは、残り1個になったロンロンをオンオンの隣にヨンヨンでつるすと、トントンで川を下っていました。大きなポンポンのそばでヨンヨンがのび、ロンロンがたくさん実っているのを見つけたスモンスモンは、トントンいっぱいにロンロンを詰め込みましたが、帰り道の途中で、ゾンゾンにうっかり落ちてしまいました！

不思議な生きものたちが住む世界が、少し奇妙だけれど、よく見ると愛嬌のある独特な絵と、ほぼオノマトペで構成された文章によって描かれています。

<子どもに手渡す時のポイント>

初見では、大混乱かもしれません、それもこの絵本の面白い所。「ロンロンって何？どっちがオンオン？こっちがヨンヨン？さっきは何だっけ？」とページを行きつ、戻りつ、謎の単語を解読するもよし、意味はさておき、まるで早口言葉のようなリズミカルな文章を声に出して読む楽しさを味わうもよし。それぞれの方法で、楽しく読んでいる内に、オンオンやヨンヨンなど、謎の単語の区別もつくようになるでしょう。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手にとってみて下さい。